

防府市防災士等連絡協議会の活動を見学しました

2025年12月14日、ルルサス防府で開催された「子ども防災キャンプ成果報告会」を見学してきました。



同協議会では、2024年より、防府市内の16小学校区を、3~5校区ずつにわけ、毎年順番に、子どもが主体的に運営する「防災キャンプ」を実施しておられます。

本年は、勝間、華城、華浦、佐波、牟礼の5小学校区の小学生を対象に、プログラムが実施されました。

防府は、2009年の中国・九州北部豪雨で大きな被害を受けた地域。防災に関する色々な取り組みが進められる中、最終的には、防府の子どもたちを「守られる側から守る側に」という考え方のもと、子どもたち自身の防災意識が向上するよう、また地域防災の担い手となれるように、活動に取り組んでいるとのことです。

子どもたちが主体的に運営する「防災キャンプ」プロジェクト 目的

子ども達が、

- ① 地域とともに災害についての知識を学習し、災害発生時の対応方法を実習することで、大人が近くにいる・いないに関わらず、災害から自分の命を守れるよう適切に行動できる力を育てる。
- ② みんなで協力して防災活動に取り組む力を育てる。
- ③ 地域に関心を持ち、災害への備えの大切さを理解する。

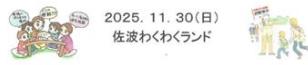
それぞれの地域で、大人と子どもが協力、創意工夫して防災プログラムを作り上げ、体験し、気づきを共有しておられました。

華浦



防災キャンプ SABA

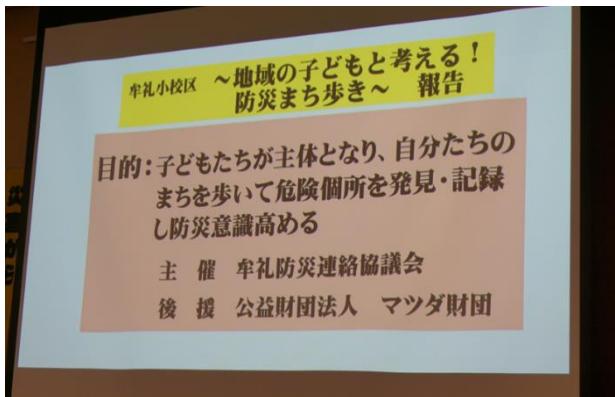
(子どもたちによる防災体験)



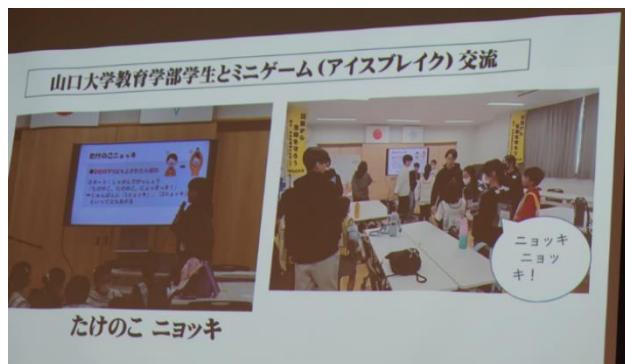
2025.11.30(日)
佐波わくわくランド

主 催: 防府市防災士等連絡協議会、佐波地域青少年育成連絡協議会
後 援: 公益財団法人 マツダ財団、防府市、防府市教育委員会、防府市市民活動支援センター
協 力: 佐波小学校、佐波地域居委会連合会

牟礼地区の場合



子ども 17 名、父兄、支援団体を含む総勢 70 名で、防災まち歩き、新しくできた公民館や消防署の見学、消防車両試乗体験、水消火器による消火訓練、ポリ袋調理で非常食の試食などを実施されました。



山口大学教育学部からも、准教授、学生さんを含め7名もの参加があり、子どもたちの緊張をときほぐし、円滑にコミュニケーションが進むよう、アイスブレイクを行ってくださったとのことです。



プレゼンター：「まち歩きをしてどうでしたか？」

子ども：「危ないところ、直したほうがよいところについて話しました。大雨が出たとき、洪水になりそうは場所がありました。ガードレールは、錆びているところを新しく塗り直したほうがいいと思いました」



どの発表でも、子どもの防災意識を向上させるアイデア、大切な気づき、今後の課題などが報告されました。

・子どもに、避難所で無理難題を言ってくる大人にどう対応するか、ロールプレイ練習をしてもらった

(例:熱があれば救護室へ、など)

・各班で班旗を作り士気をあげつつ、ベッドやトイレの組み立て、スリッパづくり、など色々な体験活動を行った

・まち歩きをして、初めて気づいた看板がたくさんあった

(消火栓がどこにあるか、場所を示す「矢印」まであるとは知らなかった)

・認定された「子ども防災リーダー」に、今後、どう活躍の場を与えていくかも課題



マップ作成

ペットボトルでランタンづくり

新聞紙でスリッパづくり



子どもを対象に、初めて
防災訓練を行った勝間地区に、
隣接地区の子ども防災士が赴き
訓練時の役割を立派に果たしました!
事前準備もしっかり行い、地域のため
に大活躍だったそうです

各地域でデザインが違います

終了証授与



防府市議会では、子ども防災士や防府市防災士等連絡協議会についての言及があり、同市防災の新たなステ

ージに向けて、今後どう連携して防災の取り組みを行うか、といった話も進んでいるそうです。先日の青森県東方

沖の地震をはじめ、日本列島のどこに、いつ災害が起こるかはなかなか予測がつきません。子どもも含め、地域ぐ

るみで、防災について考え、準備をしておくことの大切さを、改めて考えさせられた報告会でした。

防府市防災士等連絡協議会の皆さん、素晴らしい活動を見学させていただき、ありがとうございました! (竹岡)

ご参考: 昨年の「子ども防災キャンプ成果報告会」のレポートも併せてご覧ください。

<https://mzaidan.mazda.co.jp/news/2024/SJ/no54.pdf>